SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION for Violin & Piano

第6回仙台国際音楽コンクール　ボランティアニュース

Concerto

Vol.6-6

（2016.9.20発行　第6回コンクール関連 第6号）

仙台フィルハーモニー管弦楽団 楽団員インタビュー
～第6回仙台国際音楽コンクールを振り返って～

西本幸弘さん（コンサートマスター）、小池まどかさん（第２ヴァイオリン奏者）、吉岡知広さん（チェロ副首席奏者）

第６回仙台国際音楽コンクールでの共演を通して、出場者を支えた仙台フィルハーモニー管弦楽団。コンクール期間中のことなどについて、３人の団員の方にお話を伺いました。

まずは、コンクールの感想をお聞かせください。

西本：第５回は自分も出場できる年齢で出場者と共演しましたが、今回はもう自分は受けられない歳になりました。年下の出場者と一緒に演奏して、３年前とはまた違う距離感で共演できました。

吉岡：僕は今回初めてでした。出場者の人生がかかっており、それをバックアップするという意味では大変で、体力的にもきつかったのですが、やりがいもすごく感じました。そして、何と言ってもシューマン※ですね。リハーサルから含め、36回弾きました！第２楽章のチェロのソロも担当させてもらい、それも刺激になって楽しく弾くことができ、演奏を重ねるごとにすごく良い曲だなと思えるようになりました。広上淳一さん（ヴァイオリン部門指揮者）も、この曲は噛めば噛むほど味わいが出てくるスルメみたいだなとおっしゃっていました（笑）。大変な部分は沢山ありましたけれど、総合的に見ると充実していて、本当に良いコンクールだったと思いました。

小池：私は複数回経験しているのですが、同じ曲を弾いても出場者一人一人の演奏が音楽的にも全然違うので、毎回本当に勉強になります。体力的にはすごく大変なのですが、若い出場者と共演して私たちもフレッシュな気持ちになります。シューマン、私も36回弾きました！ オーケストラには大変な曲で、私のパートの第２ヴァイオリンは楽器を降ろす暇がない位ずっと弾き続けなくてはなりません。メロディーに沿って三連符を刻み続けるのも大変でした。でも弾いていてとても心地良かったです。出場者の皆さん、シューマンの内面的な素晴らしさを魅力的に弾いていて、本当にすごいなと感じました。

印象的な出場者は？

全員：スティーヴン・キムさん！（ヴァイオリン部門第２位）

吉岡：私は予選でも共演しました。全てが繊細だったので、私たちも一音一音緊張の連続で、今まで味わったことがない特別なステージでした。

西本：予選のリハーサルの時も一回通して弾いて、すぐにOKでしたね。

吉岡：岡本誠司さん（ヴァイオリン部門第６位）とは、彼が優勝したライプツィヒのコンクールで会って以来の再会で嬉しかったです。

小池：すごく落ち着いた方でしたね。21歳には見えませんでした。

西本：皆さん、リハーサルから本番に持っていくパワーと集中力には驚かされました。

小池：その点で思い出したのが、メルエルト・カルメノワさん（ヴァイオリン部門第５位）。本番はぐっと引き締まって、すごく良かったです。

※ヴァイオリン部門セミファイナルの課題曲

（左から）小池さん、吉岡さん、西本さん

西本：今回の出場者は音楽家として大人な方が多かったように思います。アンナ・サフキナさん（ヴァイオリン部門第４位）は今回２回目でしたね。前回も可愛らしくて素晴らしかったのですが、今回は少し大人っぽくなって、音の太さや音色のバリエーションも増えて、３年間の成長を見ることができて嬉しかったです。

小池：彼女のショスタコーヴィチも本当に素晴らしかったですね。すごく味がありました。ピアノ部門では優勝したキム・ヒョンジュンさんが、可愛くて素敵でした。

吉岡：演奏もすごくインパクトがありましたね。

西本：シン・ツァンヨンさん（ピアノ部門第５位）も印象に残っています。彼のモーツァルトはすごくキラキラしていました。北端祥人さん（ピアノ部門第３位）も穏やかで落ち着いた感じの方でした。セミファイナルまでの印象で、なぜファイナルにショパンを選んだのだろうと疑問に思っていましたが、演奏を聴いた瞬間、すごく説得力を感じました。

コンクールの今後の展望も含めて、メッセージをお願いします。

小池：以前出場した台湾の方から、仙台のコンクールはボランティアのサポートが充実していて、これほど心地良く受けられるコンクールはないと聞きました。私達団員もコンクール以外でも一緒に室内楽をするなど、出場者と交流できる機会があったら良いと思います。

吉岡：こんなにコンチェルトを演奏できるコンクールはありません。僕はチェロ部門があったら良いなと（笑）。

西本：「僕自身は受けたくありません！」と言いたい位ハイレベルなコンクールです（笑）。単に出場者が仙台で自分を試すだけの機会ではなくて、仙台フィルのサウンドと出場者の相互作用でどんな演奏が生み出されるか・・・そういう体験が出来る機会を大きな要として、新しいコンクールの形を仙台から発信していければ素晴らしいと思います。

西本さん、小池さん、吉岡さん、お忙しいところをありがとうございました。

第６回仙台国際音楽コンクール 審査結果

仙台国際音楽コンクールは、2001年に創設され、3年毎に開催されるヴァイオリンとピアノの2部門からなるコンクールです。2005年より国際音楽コンクール世界連盟に加盟しています。

協奏曲を課題曲の中心に据えるという特色を持ち、公正で信頼性の高い運営とともに、市民の温かいホスピタリティに支えられたコンクールです。

若き才能ある音楽家を輩出することにより、世界の音楽文化の振興及び国際的文化交流の推進に寄与することを目的としています。

2001年から始まり、2004年、2007年、2010年、そして2013年と開催される中、今年2016年は32の国と地域から370名の申し込みがあり、予備審査を通過した66名の若い演奏家がコンクールに出場しました。

ヴァイオリン部門　2016年5月21日～6月5日

第１位
チャン・ユジン
（韓国）

第２位
スティーヴン・キム
（アメリカ）

第３位
青木 尚佳
（日本）

第４位
アンナ・サフキナ
（ロシア）

第５位
メルエルト・カルメノワ
（カザフスタン）

第６位
岡本 誠司
（日本）

【聴衆賞】5/27 アンナ・サフキナ　5/28 黒川 侑　5/29 岡本 誠司

ピアノ部門　2016年6月11日～6月26日

第１位
キム・ヒョンジュン
（韓国）

第２位
エヴァン・ウォン
（アメリカ）

第３位
北端 祥人
（日本）

第４位
シャオユー・リュウ
（カナダ）

第５位
シン・ツァンヨン
（韓国）

第６位
坂本 彩
（日本）

【聴衆賞】6/17 シン・ツァンヨン　6/18 シャオユー・リュウ　6/19 エヴァン・ウォン

～広報宣伝サポート部門ボランティアに新たに参加して～

私は今回初めてボランティアとしてコンクールを楽しませてもらいました。私は広報宣伝サポート部門として関わらせていただいたのですが、本当に楽しかったです。私の活動は広報紙コンチェルトや出場者向けのマップの制作でしたが、メンバーにすごく恵まれた環境で活動ができたと思います。私が仕事で時間を作れなかった時は、他の人が代わりにやってくれたり、逆に人手が必要な時は私がヘルプに入ったりとお互いが協力し合うことができました。ギリギリにはなってしまいましたが、みんなで作り上げたマップが完成した時はとても嬉しかったです。

コンクール当日も広報紙取材のため出場者たちへインタビューするのですが、私もピアニスト数名にインタビューさせてもらいました。音楽家たちと何を話せば良いのかと緊張しましたが、皆さん気さくな方たちばかりで、すごく楽しかったです。次回2019年のコンクールではもっと英語力をあげて掘り下げたインタビューができるようになるのが目標です！

ホームステイ受入部門ボランティア

ホストファミリー体験談

◆ピアノ部門　アリーナ・ベルクさん（ルーマニア）をお迎えして　（佐野まりなさん）

子ども達と着物を体験

私たち家族にとって、約1週間にわたるホームステイを受け入れるのは初めての経験。ドキドキしながら初日を迎えました。ルーマニア出身のアリーナは、とても明るく気さくで、ポジティブ、アクティブ。私たちはすぐに大好きになりました。

8泊のホームステイの期間中、朝食と夕食の時間はほぼ毎日共に過ごすことができ、我が家の小１、小４、中１の3人の子ども達も含め、楽しい交流の時間となりました。ホットプレートでたこ焼きを一緒に作ったり、お互いの朝食の違いに驚いたり（日本の朝食はランチみたい、だそうです）、ルーマニア語や日本語を教え合ったり。子ども達がびっくり箱を作ってプレゼントし、みんなで大笑いしたこともありました。また、料理が大好きというアリーナは、ある日の夕食にルーマニア料理をふるまってくれました。初めて食べたルーマニア料理は、野菜が豊富で味付けもヘルシー、何より家庭の温かさを感じるものでした。

お料理の話、家族の話、今まで行った国の話、今住んでいるドイツでの様々な問題…。たくさんの話をしました。様々な課題がある中で、ピアノに関しては自分に厳しく努力を続けるアリーナ。時には優しく、時にはとても情熱的なピアノを弾く、この、一人の素敵なピアニストさんとの交流は、私たち家族にとって本当に貴重な経験となりました。住んでいるところは遠く離れていても、これからも応援し続けます！

◆ピアノ部門　ウォン・ジョンホさん（韓国）をお迎えして　（永井史子さん）

塩竈中央幼稚園訪問コンサートで記念撮影
（中央：ジョンホさん）

今回、我家はピアノ部門のウォン・ジョンホさん（韓国）をお迎えしました。ジョンホさんは第５回に続き、仙台のコンクールは２回目。今回は我家に１０日間滞在されました。

ホームステイ初日に仙台市立鹿野小学校で学校訪問コンサートに出演され、初めて子ども達と音楽を共有する体験をされました。演奏を聴いた小学生全員からのお手紙も１００通はあったと思うのですが、日本語の得意なジョンホさんは届いてすぐ、一気に読んでいました。

帰国日が決まると、もう一度、子ども達と音楽を共有したいと熱望され、園長先生にお願いして、塩竈中央幼稚園の講堂での演奏が実現しました。ジョンホさんは日本語でわかりやすく曲の説明をしたあと演奏し、子ども達との歌の伴奏も楽しみました。子ども達は演奏が終わった後も教室に戻らずジョンホさんを取り囲み、アンコールや歌の伴奏をおねだりしたり、クラスごとに記念撮影をしたりしていました。「今までコンクールで勝つことばかりを考えてピアノを弾いてきた。今回の仙台では、人間として生きていくのに何が必要なのかを教わったように思います」というジョンホさんの言葉に、私も胸が熱くなりました。

コンクールは終わってしまいましたが、今でもメールで交流を続けています。これからもずっと応援していきたいと思います。

◆ピアノ部門　ジュリアン・マーさん（アメリカ）をお迎えして　（石井高広さん）

さよならパーティー
（右から２番目：ジュリアンさん）

子ども達が国際交流の活動にすんなり入っていけるようにと願い、ボランティア登録をして、今回ピアノ部門のジュリアン・マーさん（アメリカ）とのご縁を得ました。居心地が良かったようで、当初予定していた大阪に行くのは延期して、ガラコンサートの翌日までほとんど我家で過ごしてくれました。彼女はあまり出かけることもなく、ピアノのある個室を用意していたのですが、こちらが心配になるほど（笑）ピアノの前に座ることはなく、ほとんどの時間をリビングで私たちとともに過ごしました。

特に思い出に残っているのは、下の娘のリクエストで娘たちと一緒にお風呂に入ってくれたこと。そして、彼女の誕生日に「たこ焼きパーティ」を催したことです。ジュリアンさんは娘を幼稚園まで送ってくれたり、我家に集まった知り合いの子ども達の前で即興演奏を披露してくれたりなど、本当に我家の暮らしに溶け込んでくれました。また、日本語も一生懸命覚えてくれ、「スゲー！」を連発するまでになりました。大切なことは何度も繰り返して確認し合うなど、お互い理解する努力はしましたが、ジュリアンさんの開放的で、思いやりのある性格に助けられて、楽しくコミュニケーションできたと思います。

コンクール後もSNSを通じて、いつも連絡を取り合っています。彼女との日々があまりにも楽しかったので、３年後もまた出場者をお迎えしたいなと感じています。そしていつの日かパスポートを取って、ジュリアンさんに会いに行きたいです。

仙台クラシックフェスティバル２０１６
おすすめ公演

sencla.com

今年で１１回目の開催となる「仙台クラシックフェスティバル（せんくら）」。今年も豪華な出演者による、さまざまなプログラムが行われます。
どの公演を聴こうか迷っているという方のために、私たち広報ボランティアが独断でおすすめ公演をご紹介します。

【開催概要】
日程：2016年9月30日(金)～10月2日(日)
会場：日立システムズホール仙台、イズミティ21、
太白区文化センター、エル・パーク仙台
お問合せ：せんくら事務局　022-727-1872

今年は「第６回仙台国際音楽コンクール」が開催され、若い音楽家による白熱の演奏が繰り広げられ、聴衆を感動の渦に巻き込みました。「せんくら」はかつてのコンクール上位入賞者と再会を果たせる大切な場所でもあります。「彼らはコンクールを経験後、どのようなキャリアを積み、進化してきたのか？」再会を含め、楽しみが広がります。今回は特に歴代優勝者が出演する演奏会を紹介します。

ジュゼッペ・アンダローロ
©Augusto Serpente

スヴェトリン・ルセフ
©FONDAMENTA

津田 裕也
©Christine Fiedler

10月1日（土）
【38】ジュゼッペ・アンダローロが弾く時代を越えた二つの音楽、ロックとクラシック
13:00～13:45　エル・パーク仙台 ギャラリーホール　1,000円

第１回ピアノ部門優勝。他にも多くの国際コンクールの優勝を総なめにしたイタリア出身の鬼才が２つの異なる音楽をどう料理するのか？ぜひ満腹にしてほしいものです（笑）。

10月2日（日）
【58】仙台ゆかりの名手たちが贈る室内楽の悦び～シューベルト「ます」
14:30～15:30　日立システムズホール仙台 コンサートホール　1,500円

スヴェトリン・ルセフは第１回ヴァイオリン部門優勝者。ストイックな彼がストラディヴァリウス1710年製「カンポセリーチェ」で豊かな調べを奏でます。一方、津田裕也は第３回ピアノ部門優勝者で仙台出身。せんくらでの演奏は、２年振りとなります。彼らに加え、仙台フィル首席ソロ奏者の二人、井野邉大輔（ヴィオラ）と助川龍（コントラバス）。そして元首席の原田哲男（チェロ）。まさに仙台ゆかりの５人の演奏家による「一期一会」の室内楽をぜひお楽しみください。

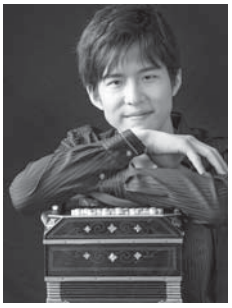
井野邉 大輔
©篠原 栄治

原田 哲男

助川 龍

10月1日（土）
【32】三浦一馬、バンドネオンの更なる魅力～心を揺さぶる郷愁のメロディー
20:15～21:00　日立システムズホール仙台 シアターホール　1,000円

月から金に働き、やっと休みになっても土曜日は洗濯・掃除・買い物で潰れてしまい、ホッと息をつくのが夜になってしまうあなたにおススメは「三浦一馬、バンドネオンの更なる魅力～心を揺さぶる郷愁のメロディー」です。
夏の暑さから解放され、名月の美しさに魅了されるとともに、ちょっと切ない気持ちになる秋の夜長にバンドネオンのメロディーがあなたの心をロマンチックな気分に満たしてくれるのではないでしょうか。
ここで、バンドネオンの説明をします。ドイツ生まれ、アルゼンチンで発達した楽器で、蛇腹を押すときと引くときでは別の音が出ます。鍵盤を弾くのではなくボタンを押すのです。習得が非常に難しいらしく「悪魔が発明した楽器」と呼ばれています。アルゼンチンといえば、ピアニストのマルタ・アルゲリッチ。自らクラシック音楽を聴くことがない私が、ラジオから流れたピアノのあまりに美しさに感動して、曲の終わりに紹介される演奏者の名前を集中して待ちました。そのアルゲリッチと三浦一馬は共演したこともあります。
バンドネオンは現在、ほとんど生産されていません。彼が使用しているのは、恩師であるネストル・マルコーニより譲り受けた銘器、Alfred Arnoldです。
悪魔が発明した楽器から繰り出される魅惑のメロディーは、日常の忙しさや煩わしい日々をセピア色の映画のワンシーンのように魅せてくれるかもしれません。


三浦 一馬
©Satoshi Oono

♪編集後記♪

今年も『せんくら』の時期がやってきました。昨年　第二の人生を歩み始めて間もない時期でもあり、かなり欲張ってチケットを購入したものの体力が伴わず、子守唄を聞いている状態でした。今年は気楽に出かけようと思っております。(H.S)

いろいろなことに追い立てられて、コンクールが過ぎても余裕がある日々が戻ってきません。このまま年末まで走り続けるか・・・(岡)

新メンバー加入後初めての編集でしたが、新たな視点が加わり、新鮮な気持ちです。(川)

台風が次から次とやって来て、交通手段の確保が心配な日々のなか、校正作業に参加しました。今回のような校正を含め打ち合わせに参加するたびに学ぶことが必ずあります。Ｅテレではありませんが、「知らないってワクワク」の心境です。(A.M)

楽しみにしていた「せんくら」なのに、会社の出張が10月１日（土）急遽入り、本当に残念です。２日早朝に仙台に戻り、可能な公演を聴くことにしました。(ＴＴ)（早）

はじめての原稿作成楽しかったです。今まで読む側だったので編集側に携われてとても嬉しかったです。(栗)

今回のコンクールのヴァイオリン部門セミファイナルの課題曲、シューマンのコンチェルト。聴けば聴く程、この曲の魅力にはまってしまった。出来たら昔からのファンだった、今回審査委員長の堀米さんのヴァイオリン、オケはもちろん仙台フィルでもう一度聴きたい、と念ずれば通じる！かも。(吾)

「せんくら」を楽しみたいなと思いつつ、いつもバタバタしているうちに終わってしまいます。いつの日か公演の「はしご」をしてみたいです。(事務局/石)

第6回コンクールの優勝者のお2人と、そしてすべての出場者の皆さんのこれからの活躍を楽しみにしています。(事務局/松)

発 行：第６回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：仙台市市民文化事業団コンクール推進課（仙台国際音楽コンクール事務局） Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: http://www.simc.jp/